



想いを音にのせて



第24回東日本学校吹奏楽大会(株式会社フォトライフ提供)

東日本学校吹奏楽大会で
3年連続金賞を獲得

鳩山中学校吹奏楽部は、3年連続東日本学校吹奏楽大会で金賞を獲得しました。2年連続で金賞を獲得している強豪校として、プレッシャーと闘いながらのコンクール出場でした。今回の特集では、コンクール金賞を受賞した吹奏楽部の軌跡をたどります。

吹奏楽部のこれまで

今年度は、1年生13人、2年生15人、3年生13人の計41人が所属し、少人数ながら迫力のある音が魅力となっています。

部員の中には、入部した時に初めて楽器に触れる、楽譜が読めないなど吹奏楽の基礎から練習する生徒もいました。このため、多くの学校が目指すコンクールにおいて金賞を獲得することは極めて難しいことでした。

普段の練習から、顧問がいない環境でも部員たちが主体的に考え、パート練習や個人練習で課題を洗い出し、全員がそろった時に話し合いや合同練習を行っています。

現在は、外部コーチによる指導も行うっており、個人練習で見つけた課題を徐々に解決していきます。

また、鳩中吹奏楽部といえば、「ふれあい演奏会」や「人権問題を考える町民の集い」への出演など、地域の皆さんとともに音楽を楽しんでいるのも特徴です。

毎年開催しているふれあい演奏会では、合奏曲だけでなく、馴染みのある名曲や流行りの曲も演奏します。「幅広い年齢の方に鳩中の音楽を楽しんでもらいたい」と、プログラムは部員が考えています。

一丸となって取り組んだ
1年間

昨年までは先輩に引張ってもらった立場だった3年生の13人は、3年連続コンクール金賞に向け、部全体の雰囲気や後輩の育成について考え、取り組んできました。学年の壁があると良い音色は出ないと考え、後輩でも意見を言いやすい環境を意識し、明るい雰囲気を作り上げてきました。

令和6年10月12日に開催された第24回東日本学校吹奏楽大会では「無事の祈り(樽屋雅徳氏作曲)」を演奏し、見事3年連続で金賞を獲得しました。聴かせどころのソロ、音を重ね自分たちの「うた」にする力を磨いてきた結果でした。

10月下旬に、金賞を獲得した鳩中吹奏楽部3年生13人が、町役場に表敬訪問に訪れました。今年卒業となる吹奏楽部の13人に、部活動への「想い」や音楽について、聞きま

鳩中吹奏楽部の音作りに迫る

小川町長が鳩山中学校の生徒と座談会！

鳩山中学校吹奏楽部の3年生13人が、東日本学校吹奏楽大会3年連続金賞の報告に訪れました。部活動で大変だったことや鳩中吹奏楽部の強み、部員の皆さんの「想い」などを小川町長が深掘りしました。



の人よりもヘッド感や音が合わせにくいです。メロディに寄り添える音色づくりが大変でした。

部員(トロンボーン担当) トロンボーンはメロディパートがありません、ずっと伸ばしや刻みのテンポが続きます。なので練習しても楽しくないと感じるときもありました。けれど、できないところをできるようにするための練習に取り組みました。

部員(ホルン担当) ホルンはベルが後ろ向きなので、吹いていても音があまり聞こえないことがあります。音を飛ばすといった、見えない部分が大変でした。

部員(サクソス担当) サクソスは低音から高音まである楽器で、音量や音色がそれぞれ違います。それをどうまとめるのかを考えたのが難しいです。

たです。けれど、それぞれが個人練習に取り組み、中音から高音の音色の違いをどう見せるのかを考え、工夫しました。

町長 それぞれが担当する楽器によって大変なことって違うんですね。今その大変だったことよりも、やりきった達成感を感じている人はいますか。

部員(全員選手) 町長 大変なことってたくさんあります。良い演奏ができるか不安だったり、先輩方が金賞を受賞してきたプレッシャーがありましたよね。それが1年間あったけれど、金賞を受賞するとう「未来」を目指して頑張った結果だと思います。

皆さんが考える鳩中吹奏楽部の強みはなんですか。

部員 鳩中の強みは、想いがこもった音楽だと思っています。表現力が豊かなところ、音色が温かいところが強みだと思います。

町長 コンクールでは皆さんの「想い」が音楽にのってたように思いました。他にはありますか。



町長 東日本学校吹奏楽大会以下、コンクール、3年連続金賞おめでとうですね。まずはコンクールに出場した感想を教えてください。

部員 コンクールは演奏する人だけでなく、演奏しない部員もいます。また、コンクルールのスタッフさんや審査員など、色々な方がいて成り立っているものだと思います。

当日には、家族や先生、町の方が来てくれました。たくさんの方に応援されていきました。まずは感謝の気持ちがあります。

町長 支援してくれる方々と一緒に金賞をつかみ取ったということを実感したんですね。では、なぜコンクールで金賞が取れたと思いますか。

部員 先輩方が抜けてからは不安がなくても大きかったです。2年連続で金賞を受賞していたので、3年生である自分たちが頑張らなくちゃいけないという、プレッシャーをすごく感じていました。

今までは自分のことに集中していることが多かったですが、3年生になってからは周りのことも気にかけなくてはいけないことが大変でした。部活動の時間に、先輩の指導をしていると、個人練習の時間が足りず、家だいてもできる練習をしていました。

町長 私が大学時代、ラクロスのチーム練習の時に一番意識していたことは、「チームで練習するときは、個人の改善点は練習しない」、「チームでいると



ときには、チームの練習をするということ。個人だけでなく、チームのためや先輩のために頑張る。その意識が皆さんにあったから、金賞を取れたんじゃないかなと、今話を聞いて思いました。

皆さんは、普段の部活動ではどのようなことを意識して頑張りましたか。

部員 全員が部活を楽しめるような明るい雰囲気づくりを頑張りました。また、先輩への指導やお互いに意見を言えるような環境づくりに取り組めました。

部員(トランペット担当) トランペットは花形楽器なので、音をしっかりと出せるように頑張りました。

部員(チューバ担当) チューバはハーモニをやるので、音程のずれが分かりやすいです。一番意識したことは、音程を合わせるということです。

町長 では、大変だったことはなんですか。

部員(ユーフォニアム担当) ユーフォニアムは、低音のパートなので、メロディ

部員 良い意味でも悪い意味でも、部員同士の仲が良いことだと思います。パート内での学年の壁を感じず、先輩が先輩に何か言えるという環境があります。仲が良いから、色々な意見が聞き取れて、結果がついてきたんだと思います。

町長 悪い意味で仲が良いという、馴れ合いになつてしまったりするときもあります。このバランスはとても大事です。悪い意味の方を3年生である皆さんが常に軌道修正していたから、強みになったんじゃないかなと思います。

部員 仲が良いからこそ、鳩中の音が出せたいと思います。どのパートがうまいとかではなく、鳩中として、鳩中の音があります。

町長 会場では、3列目で聴きました。が、楽しく演奏していることが伝わってきました。最後に、後輩へのメッセージはありますか。

部員 大変なことも多いと思うけれど、とにかく楽しんで頑張ってください。みんなで気持ちをつなぐすればいい音楽がつかれると思います。

これから先、部長や副部長が決まると思うけれど、みんながリーダーとして、自分の意見を持てるようになり、自分の音を見つけてほしいです。

周りの方々の支えがあつて、コンクールに出場できているので、感謝の気持ちを忘れずに演奏を続けてほしいです。一人でも演奏を楽しめない人がいたら、いい音楽はつくれないと思うので、心を一つにして頑張ってください。

町長 座談会を通して、皆さんは人を大切にしているなと感じました。これから進路等について、悩むことはたくさんあると思います。けれど、この経験をした皆さんなら乗り越えられると確信しています。

たくさんの応援
ありがとうございました！

